

# 亀岡市生涯学習推進審議会 会議要旨

日時：平成31年3月19日（火）14:00～16:00

場所：亀岡市役所401会議室

## 1. 開会

(事務局)

今年度の生涯学習審議会を開始する。

それでは、開会にあたり、市民力推進課長の伊豆田よりあいさつをさせていただきます。

## 2. 開会あいさつ

(市民力推進課長)

今日は、忙しいなか審議会に出席いただきありがとうございます。

本審議会では、平成22年度に策定をした「新・亀岡市生涯学習推進基本計画」について、進捗状況や課題点について、協議をいただいていた。

本計画については、平成31年度までの内容となっており、来年度には、現計画の精神を引き継ぎながら、次期計画に臨んでいきたいと考えている。

今日は、現計画の成果と課題を振り返るとともに、さらなる生涯学習の推進を目指して皆様から忌憚のない意見をいただきたいと考えている。

また、去年は亀岡市が生涯学習都市宣言を宣言して30周年を迎えた。

今後、生涯学習をさらに推進していくためにも、しっかりと成果と課題を振り返りながら議論を進めていきたいと思う。

皆様にはお世話になるがどうぞよろしく願います。

## 3. 資料確認・出欠確認

(事務局)

・資料の確認

・本日、井本委員、江口委員、宮本委員から欠席のご連絡をいただいている。

## 4. 協議

(事務局)

それでは、協議に入っていく。

進行については、生涯学習推進審議会条例に基づき、会長に願います。

(会長)

事務局からあったように、現在の生涯学習の計画は来年度までとなっている。

そこで今回は、次期計画策定に向けた、現計画の進捗状況の確認や成果・課題について幅広く意見を求めたいと思う。

それでは、「新ふるさとかめおか学びのプラン」の現在の状況について事務局に説明を求める。

(事務局)

「新ふるさとかめおか学びのプラン」の進捗状況、成果・課題を説明 資料①

(会長)

報告に対して何か質問はないか。

なければ協議に移るが、意見交換の中でも必要があれば質問していただければよい。

意見効果の主旨は、説明にもあったように、現計画において、できたこと、できなかったことを含めて、皆さんの感じていること、また、これからどのようなことに意識を向けるべきなのかを、それぞれの普段の学習活動で感じていることも含めて意見をいただきたい。

まずは、計画の進捗状況をみて何か意見はないか。

(委員1)

資料をみていると亀岡市が主体となって行った活動は分かるが、市民が主体となって行っている活動が見えにくい。

最近、市民が中心になって活動し、亀岡市が後援するといったものも多くあるため、そういった活動も見えるとよい。

また、最近SDGsなど地球規模で様々なことを学んでいかなければならないと言われている。そういった要素も入れていければよいと考える。

その中で一番に重要なのは「平和」であるが、それに関連して重要だと考えるキーワードとして「健康」がある。

「健康」には、「体の健康」「心の健康」「社会の健康」の3つがあり、「生涯学習」を考えるうえでも重要な要素ではないかと思う。

単に生涯学習といえども、知識が増えることを目的にするのではなく、得た知識を「行動」によって地域づくりに活かし、亀岡が良くなっていく流れができればよい。

(委員2)

大きく分けて2点ある。

1点目は、「生涯学習」については、対象が広域でやるべきことが多くなりすぎる。

10年といった決められた期間のなかで、しっかり何かを進めていくためには、優先順

位をつけてスケジュール感を分かりやすくする必要があると思う。

2点目に広報について。広報の不足が課題になっている部分が多いと感じた。効果的な広報を目指す際には、単にSNSを活用したとするのではなく、それによって何人の集客を得たなどの目標設定をするべき。また、その目標をいかに達成できたのか検証をして、最も効果的な広報が何だったのか把握すべき。

(会長)

亀岡の場合は、ギャラリーかめおかを中心に様々な生涯学習に関する事業が行われていると思うが、その他に地域で行われている活動もあり、それらの連携や棲み分けが見えにくいと感じる部分もある。

そういった観点で何か意見はないか。

(委員3)

亀岡会館がなくなって生涯学習を行うハード面での課題が大きくなっていると思う。

市民大学について。出席して終わりになっている雰囲気がある。学んだことをいかに発展させて活用していくか考えられる仕掛けが必要ではないか。

また、そのような動きが活性化していくためにも、活動の場の整備が必要であり、亀岡会館の代替施設の重要性や自治会の活用の重要性を感じている。

昔は地域には公民館があり住民に活用されていた、最近では、その活用についても不十分になっているのではないか。

公立学校の図書館司書についても、できれば各中学校には配置してほしいと思う。

(会長)

施設の話があった。

そのあたりで今後の方針が見えにくいといった指摘もあるが事務局で何か把握している情報はるか。

(委員4)

市の財政状況も苦しいなか、具体的な計画はないと聞いている。

(委員5)

ギャラリーかめおかは生涯学習の拠点となっているが、音響設備がよくない。

過去に歌謡曲関係のイベント開催の打診があった際に、ギャラリーの設備ではできないと断られた経験がある。(亀岡会館で開催した)

他市を見ていると音楽ホールのような施設がしっかり存在する。

市内には、音楽関係の事業をしたいと思っている人も多数いると聞いているので、それを実現できる施設の存在は重要だと思う。

(会長)

多目的施設の弱みでもある。

プロ、アマチュアに関わらず、しっかりした設備のなかで活動したいと考えるひとは多いはずだ。

(委員3)

神前にある交流会館も活用できる施設の一つだが、アクセスが悪い。子どもであれば一人で行けない。

(事務局)

実際、交流会館については、アクセスの面で課題はあるものの、最近では、地元市民の活動の拠点となっていたり、コテージができて市外からの宿泊客の対応ができるようになったりしている。それに加え、従来から、交流会館を拠点として子どもたちに環境教育をすることを目的に、地球環境子ども村事業が展開されており、事業が開催される際には、保護者が子どもを連れて参加してくれている。

亀岡会館などの施設の話が出てきているが、ギャラリーかめおかでさえも開館から20年を迎え、今後継続して活用していくためにも大規模な修繕を考える時期に入ってきている。そのような既存の施設を継続していただいても財政的な負担が大きくなっていく現状があるのは確認しておきたい。

ただ、そのようななかでも生涯学習を推進する施設が少しでも整備できないかとの思いから、東別院町にある石田梅岩の生誕地を整備する事業が進められはじめている。これは、整備にかかる費用を「ふるさと納税」を活用して全国から募ることで実現しようというもので、新たな生涯学習を推進する場づくりになるのではと考えている。

(委員5)

亀岡にゆかりのある偉人は石田梅岩以外にもたくさんいる。

石田梅岩に限らず、それらの人物の資料を一か所に集めてしまうのも財政的な負担を考えた際の一つの方法である。

(委員6)

自治会館には、朝から晩まで地域の人が見え、様々な活動をしてくださっている。

自治会も手狭になり、ギャラリーでの活動を考えるが交通の便が悪い。

自治会以外にも公民館、小学校の活用も考えるが空き教室も少なく、活動の場所が限られている状況がある。

地域に新たな施設を建設することが難しいとしても、学びに対してやる気のある人が学びやすい環境づくりをこのような場で考えてほしい。

(委員5)

京都学園大学や大本の施設を借りて活動したこともある。

(委員1)

私もNPOを立ち上げて元気アップ教室を23町中12町で出向いて実施している。残りの11町に関しては、活動はしたくても場所がない。

今後、高齢化がさらに進むと行動できる範囲が非常に限られてくる。

理想を言えばそのような状況でも地域ごとで顔を合わせながら交流できる場があればよい。

ふるさと納税以外にも、クラウドファンディングなども活用して学びの環境整備を進めていければいいのではないか。

またその学びの輪には、市外の人にも積極的に入ってきてもらい、亀岡の自然の良さを知り、滞在してもらうことで人の良さを知ってもらいたい。

最近、フォトロゲイニングといった新しいスポーツに取り組んでいる。11月23日には大会を開催する予定であり、亀岡の魅力を多くの人に伝える機会にしたいと考えている。

(委員4)

11月23日は、生涯学習の祖でもある石田梅岩に関する「梅岩フォーラム」も開催される。そういった事業と連携してもよいのでは。重複して開催するだけではもったいない。

(委員1)

大会を開催するときには、地域の情報を落とし込んだマップを作成する。

例えば、地域の農産物を作る人の情報を落とし込むなど、市民の学習活動の情報を入れて、参加者に知ってもらうようなこともおもしろいかもしれない。

(会長)

情報の発信にも関わるような内容だったと思う。

そのようなことをする際に、しっかり地域の中で情報が共有できるネットワークが形成されており、市内でどの団体が何をしているのかなどの情報が集約されていることが望ましい。

(委員1)

先日、大学宛てにスポーツ省から、行政・商工会議所・大学などがネットワークをとった組織で「生涯学習」「スポーツ・健康」「観光」などの要素が入った事業に最大800万円助成するといったような案内があった。

そのようなチャンスも活かしていければいいと思う。

また、これまで行ってきたことをしっかり把握し、行政内でも全体的に同じ視点をもって事業を進めていくべきだと感じている。そういった意味では、行政内での共通の目標設定やネットワーク形成が改めて重要になってきていると考える。

全体の取り組みに言えることだが、2019年度からは、単に会議をするのではなく、何かをしっかりと「実践」していくことができればよいと思う。

広報と併せて、地域内において直接話すこと（ロコミ）で情報が飛び交う「顔の見える社会」をつくっていくべき。

（会長）

生涯学習の分野でもいかに情報を共有できるシステムをつくるかが重要だと言われている。

（委員1）

先日、コミュニティーデザイナーの山崎氏による講演会がギャラリーかめおかであった。開始一番に人生100年時代と言われるなかで、大学が最終学歴と言われてしまう世の中はいかなるものかといった話があった。

また、何かを始めるときには、市民が主体的に考え、自分たちがつくったもので自分たちには何ができるのを考えてもらうことが重要だともあった。そのように自分たちで自分たちのできることをしっかり企画段階から考え、そこから市民の活動が始められないといくら設備を整えてもその設備は機能していかないとされていた。

（委員7）

先ほどせっかく事業をしても参加するための交通手段がないといった意見には共感する。

私の出身地では、バスが減少していき今年ついに全くない状況になった。

このような状況のなかで特に高齢者はどこにもいけないような状況になってきており、食べ物も配達サービスを利用しているようだ。

高齢化については今後10年でも進行していくことが考えられるなかで、高齢者の交通問題は大きな課題になると感じている。

ハード面も人口減少のなかで、縮小していかなければならない。

このような時代をどのように乗り切っていくのか考えなければいけない。

（会長）

高齢者が動くのが難しければ、こちらから出向いて出前講座を行うなども考えられる。あとは、公共の交通機関の整備も進めていくことが考えられる。

(委員 7)

確かに生涯学習においても出前することを考えていかなければならないのかもしれない。

そうすると地域の公民館の活用などはやはり重要になると考える。

(会長)

日本全体でもそうだが、一つのまちを見ても中心部に人が集まる傾向が強い。

(事務局)

確かに、人だけでなく生涯学習といった観点で見ても情報などガレリアかめおかという中心的な施設に集中している傾向があるのかもしれない。

先ほどあったようにガレリアで行っている講座一つにしても、地域に出て行って実施することができれば、ハード面に頼らなくとも効果的な生涯学習の推進ができるのではないかと感じた。

(事務局)

社会教育や人権教育においては、地域から依頼があれば講座を開催したり、講師を派遣したりしている。

他には出前タウンミーティングといった事業では、地域で学びを深めたい際に行政に要請してもらい、要請内容に該当する担当課が地域に出向かせていただくこともある。申し込みをされる団体が固定化してきているといった課題もあるが、地域に出向いて学びの場を提供するといったことも市として継続して実施できているとは考えている。

以前いただいていた移動図書館などの案もおもしろいが、そもそも市民にどのようなニーズがあるのかは事前に確かめる必要があると感じている。

(委員 7)

最近耳にするのは、勉強一色ではなく、テレビで時代劇がしていないから映写会をするなど、楽しめる企画もしてほしいといった声をよく聞く。

(委員 5)

ガレリアかめおかでは、過去に実際に映画会などの催しもあった。

(事務局)

人を地域に派遣するという観点でいうと、生涯学習人材バンクなどの活用も考えられる。人材バンク登録者のなかには、地域に出向いて講座をしてもよいと言ってくれる人もいる。ただ、人材バンク活用実績としては、年間数件となっており、そもそもの人材バンクの周知や活用方法についてPRが必要な状況である。新たな登録者(若者中心の団体など)も少ないことから、活用したいと思う人が増えないことも考えられる。

(委員 1)

今の登録者数はどの程度なのか。

(事務局)

60件程度である。

(委員 8)

登録するのに何か特別な条件などはあるのか。

(事務局)

特に特別な条件はない。

自分の活動をさらに地域のために活かしたいと考えてくれる人に登録してもらっている。

(委員 8)

非常に良い仕組みなので次はそれをどのように活用するのか考えられるとよい。

(委員 1)

それぞれのPR文章を掲載してはどうか。

また、例えば12回コースで講師を組んで23町を回ってみるなどできればよいのではないか。それであれば、1回準備したことが23回活きることにもなる。

(会長)

人材バンクで最も重要なことは、登録した人をコーディネートする存在をしっかりと育てることにある。

他市では、生涯学習推進委員といった名称で人を配置している事例もある。

(委員 8)

資料①の項目4でも協働コーディネーターの配置が達成できなかったとある。

(事務局)

ここでのコーディネーターは市民活動に特化したコーディネーターを意味する。

市民活動でのコーディネーターは京都府でも配置されているが専門的な知識を持った人材を確保することが非常に難しい状況があるように聞いている。

生涯学習の分野でもコーディネーターを配置しようとする際には同じような課題に直面する可能性が高いため、コーディネーターになり得る人材をどのように地域で育てていくのかといった視点も重要になってくると考える。

育成につなげるプログラムの材料は、ガレリアの事業を中心に既存の事業でも十分だ

と思うが、それをどのように組み合わせるのか、また、委員3の意見にもあったように知識を蓄えて終わるのではなく、さらに発展させようとする意識をどのように高めていくのかといった仕掛けづくりが必要なのではないかと本日の議論を聞いていて感じた。

(会長)

そのような視点をいかに既存の事業に入れ込んでいくかが重要だと思う。

(委員1)

先ほど提案した地域を回る講座において、講座を受講した人が地域におけるリーダー、コーディネーターとして成長していく雰囲気をつくればよいのではないかと。

市全体のネットワークづくりにもつながる行動だと思う。

(会長)

多くの地域では公民館を住民組織が主体的に動かしているのも、そのようなチームが地域でどのような人を呼んで講座をするのか考えてくれるとよい。

それぞれの地域で生涯学習を支えていく住民の組織が将来できるとよいと思う。

(委員4)

公民館はスポーツの企画など特定の内容で使いにくいケースもある。

そのような場合には、ガレリアかめおかが会場となることが多いと思うので、地域とガレリアをつなぐ送迎サービスのようなものを構築することも1つの手段ではないかと。

(委員1)

教育委員会のバスなど子どもの登下校のときしか使用していないバスもあるのではないかと。それらを有効活用してもよいかもしれない。

(会長)

様々な角度から意見をもらえた。

これらの意見も反映させながら次期計画を策定していくことになると思う。

次に、その計画づくりについてスケジュール等の説明を事務局に求める。

(事務局)

「次期計画策定の方針とスケジュール」を説明 資料②

(会長)

何かご意見、質問があればお願いします。

(委員 2)

生涯学習に直接関わらない各専門分野についても生涯学習に影響してくると思う。

計画の軸から外すとしても、現状としてどのような計画があって、どのような目標が掲げられているのかなど分かる資料を次回提供してほしい。

それらを参考に次期計画の具体案も提案してほしい。

(会長)

各専門分野のことも知り、それらの状況も視野に入れないと生涯学習の計画といった結論も導き出せない。ぜひそれらの資料については提供していただき、その中でここでは何を重点的に行うのかといった議論ができればと思う。

(事務局)

承知した。

(委員 8)

現計画の重点事項が非常に多くわかりにくい。

次期計画では、もっと重点事項を絞って何を優先して行っていくのか一目で分かるようにしたい。

(事務局)

事務局としても意識したいと考えている。

例えば、10年計画のうち、前期5年では何を、後期5年では何をといったように優先して進めていく目標項目をそれぞれ3つ～4つ程度設定するのはどうかと考えている。具体的な設定課題やそれをいくつ設定するのかなどは、審議会において来年度協議を進めるなかで決めていきたい。

(委員 1)

その重点目標の達成度を測る目標値のようなものも設定できるとよい。

これまでの10年は「理念」の10年だったと思う。

これからの10年は「理念」を「行動」に移す10年にしていけるような計画になればいいと思う。

(会長)

全てを数値化するのは難しいかもしれないが、目標設定はしていくべきだろう。

(委員 4)

4月から有給休暇の取得義務化が始まる。そのような時間を有効利用する1つの手段として生涯学習をからめられないかと思う。

(委員1)

新たに何かをするのではなく、すでに市民が立ち上げている「学び」があると思う。それらを紹介し、市民主体の活動が盛り上がっていくような支援の在り方が望ましいと考える。

(会長)

今日は、様々な角度から意見をいただきありがとうございました。  
来年度についてもよろしく願います。それでは事務局に進行を返す。

## 5. その他

(事務局)

会長ありがとうございました。  
委員の皆様もご意見ありがとうございました。  
その他の事項で事務局から事務連絡をさせていただく。

- ・次回会議は7月ごろを予定
- ・日程調整は後日、事務局が行う。

## 6. 閉会

(事務局)

今日は誠にありがとうございました。  
来年度もよろしく願います。